

「民間交流と中日関係」

李華傑（大連民族大学）



未来さん、こんばんは。まず自己紹介をいたします。私は李華傑と申します。中国の大学二年生です。今、寮で未来さんに手紙を書いております。君はきっと未来で私たちを待っているでしょう。

「未来さんはどんな外見ですか？ 性格は？」。質問はたくさんありますが、誰も答えてくれませんでした。でもそれは当然ですよ。誰も未来さんに会うことができませんから。

けれど、一つの事実は分かっています。それは未来さんが今後どうなるかは、私たちが何をやるかの結果だということです。実はみんな知っています。けど、未来さんのためにずっと頑張れる人は少ないです。本当に残念です。

私は大学に入る前に、日本と日本語に触れる機会は本当に少なかったです。宮崎駿監督の映画を除いて、何もないです。しかし日本語科の学生になりました。不思議ですが、これは運命かもしれません。ならば、私は日中両方の立場で考えなければならぬと思います。日中関係がよくなるには、政府も民間も努力しないとイケないと思います。でも状況はそんなによくないです。

1972年に日中国交正常化が実現しましたが、終わったばかりの戦争を忘れることはできませんでした。それから、靖国神社を参拝した首相がいました。尖閣諸島についての所有権とか、戦争法案とか、これらは中国人にとって困った問題です。政府間の交流は、だから多くないのです。日中関係が良くなるようには思えないです。

一方、民間でも問題があります。私の祖母は、今も私の専門が日本語ということを理解できません。祖母を訪問すると「なぜ日本語を専門に選んだか。卒業すると仕事を探しやすいからか」と、不満げな質問がどんどん来ます。理由は知っています。祖母は昔、日本軍に殺されかけました。私が「例えば隣近所と剣かして、大人たちはお互いに憎んでいるとしても、子供たちは一緒に楽しく遊ぶべきではありませんか」といくら説明しても、祖母は頑固な態度を崩しません。本当に仕方がありませんね。

未来さんはこうした状況を見ると、きっと悲しいでしょう。前途多難ですね。2つの国の政府は意見が一致しないし、民間では祖母みたいな人間が少なくないです。どうしたらいいのでしょうか。私はいい面を探してみたいです。

まず、日中間の貿易額は増えるばかりです。つまり日中はもう経済共同体で、お互いに離れられませんから、戦争の可能性も低くなりました。そして経済の発展によってお互いの文化も知るようになりました。特に日本のアニメは中国でとても人気があります。お互いの理解が深まりました。もっとも重要なのは人間です。私のように平和な未来を願う人がだんだん多くなって、祖母のような頑固な人は少なくなっています。隣近所なんだから、ちゃんと付き合わないといけなんでしょう。

未来さん、私はまだ日本に行ったことがありませんから、これはただ、中国人として、中国人の立場からの意見です。日本からの立場はまだ分かりません。ごめんなさい。

でも私は頑張ります。日中友好は私にとって、両国の政府と国民にとって、全世界にとっていいことです。ですから、両国の平和な未来を担う青年として、必死に日本語を勉強して、私は必ず頑張ります。

もうこんな遅い時間になってしまいました。今日はこれで終わりにしましょう。眠すぎますなあ。夢を見るときに、未来さんに会えればいいですね。ではおやすみなさい。